

2026（令和8）年度 栄養学部 食文化栄養学科 編入学2期 小論文試験問題 出題の意図

本設問は、「美味しい」という日常的な言葉を題材として、食を単なる嗜好や味覚の問題としてではなく、文化的・社会的側面を含む広い視点から捉えることができるかを確認することを目的としている。具体的には、「美味しい」という評価が、味や香りといった感覚的要素だけでなく、経験、環境、人との関わり、地域性など、さまざまな要因によって形成されていることを理解し、多角的に説明できるかを重視している。

また、現代の食を取り巻く状況として、食の多様化や価値観の変化、物価上昇や生活環境の違いなどに触れ、「美味しさ」が誰にとっても同じように保障されているわけではない現実を踏まえて課題を整理できているかを評価する。特に、食の選択に関わる多様性や、家庭料理・郷土料理の継承といった視点を通じて、食文化が抱える課題を自らの言葉で考察できているかを確認する。

さらに、味覚的な評価にとどまらず、「美味しい」という言葉の背景にある社会や文化のあり方を見つめ直し、今後どのような視点で食文化を捉えていくことが重要であるかについて、自身の考えをまとめ、論理的に表現できるかを問うている。本設問を通じて、食文化栄養学科で学ぶ上で求められる、食を総合的に考察する力と表現力を備えているかを総合的に判断することを出題の意図としている。